

3 株式会社ヘルスケアシステムズ

機能性食品素材の研究開発と開発支援の他、抗体の固定化技術の開発に成功。酸化ストレスや炎症反応に特異的な未病マーカーの抗体チップ上での測定技術を使って、未病検査の確立や研究開発を行う名古屋大学発ベンチャーである「株式会社ヘルスケアシステムズ」代表取締役の瀧本陽介氏にお話を伺いました。

未病検査を通じて
自分と家族の健康づくりを応援する
名古屋大学発ベンチャー企業



瀧本 陽介 社長

会社概要

入居 BI 名古屋医工連携インキュベータ(NALIC)

代表取締役 瀧本 陽介

所在地 愛知県名古屋市千種区千種2-22-8

事業概要 疾病予防・未病検査の受託分析、機能性食品の研究開発など

URL <http://www.hc-sys.jp/>

- 2005年～2007年 JST大学発ベンチャー創出プログラム事業に採択
- 2009年 3月 株式会社ヘルスケアシステムズ設立
- 2009年 4月 名古屋医工連携インキュベータ 入居
- 2009年～2010年 経済産業省地域イノベーション創出研究開発事業に採択
- 2011年 1月 名古屋市大学発ベンチャービジネスグランプリ奨励賞受賞
- 2013年 中小機構海外展開F/S支援事業採択
- 2014年～ 内閣府戦略的イノベーション創造プログラムに採択
- 2015年 1月 京都ラボ開設

起業、会社のおいたち

—— 起業の経緯について教えてください

私自身は金沢大学大学院で生物学を専攻し熱帯の昆虫を研究していました。大学院修了後、縁あって食品臨床関連の三重大学発ベンチャーに勤務することになりました。そこで臨床試験の現場から営業、経理等までベンチャー経営のイロハを経験しました。その時に出会ったのが機能性食品研究の第一人者である名古屋大学農学部の大澤俊彦教授です。大澤教授からベンチャー企業を立ち上げる時にお声掛けいただき、2009年3月1日に設立したヘルスケアシステムズの代表取締役に就任しました。当社の強みは検査マーカー（モノクローナル抗体）の開発技術力です。これは大澤教授のこれまでの研究経験によるところが大きく、創業前に科学技術振興機構（略称JST）の大学発ベンチャー創出プログラムに採択されるなど、基礎技術を磨いてきた経緯があります。

—— その後は順調だったのでしょうか？

企業や研究機関からの研究用検体分析を受託することで事業を軌道に乗せようと考えていましたが、いざ事業を始めると検査システムに課題が見つかるなど、創業当初は開発の面でも事業運営の面でも苦労が絶えませんでした。ひとつめの転機は、経済産業省の地域イノベーション創出研究開発事業に採択され、コア技術だった抗体チップ測定システムに実用化のめどが立ったことです。それでも事業が軌道に乗るまでは5年近くかかりました。それまでの間は、食品原料の輸入

製品紹介

郵送検査キット「ソイチェック」

「エクオール」とは、大豆イソフラボンが腸内細菌のチカラでつくられるスーパーイソフラボン。エクオールをつくれる人は、イソフラボンの健康効果をより効率的に得られるが、その割合は日本人の半分以下。「ソイチェック」はエクオールがつくれているかどうかを簡単に調べることができる郵送検診キット。

今後、食塩摂取量を測る「シオチェック」とカラダのサビつきを測る「サビチェック」を順次販売する予定。



販売や機能性食品の開発コンサルティングなど、とにかく事業が継続できるように自分たちの技術と経験で出来ることをなんでもやりました。

ある時、全国放送テレビの情報番組で豆乳を特集していた時に、「エクオール」が取り上げられました。大豆に含まれるイソフラボンは、その健康効果に個人差があります。効果が高い人は腸内細菌によって「エクオール」を産生出来る人で日本人の約半分がこの菌を持っている、ということが最近の研究でわかっていました。私たちはちょうどエクオール検査の開発をしていたのですが、テレビでこのことが取り上げられると、当社のホームページを見た方から多くの問い合わせがありました。それまでは一般の方から問い合わせをいただくことは一度もなかったのに、この時が、もしかしたら一般消費者に受け入れられる検査なのではないか、と感じた最初の瞬間でした。大学や食品メーカーからの受託分析だけでは将来性に限界を感じていたため、一般消費者からの問い合わせは非常に嬉しかったことを覚えています。

事業の展開と現在

— 現在の状況は如何でしょう？

2012年に、エクオール郵送検診キット「ソイチェック」の販売を開始しました。当初は一般向けの販売をどうやったら良いのか、知名度を上げるにはどうしたら良いのか全てが手さぐりの状態でしたが、検査技術には自信があったので、医学会や食品関係の学会での学術発表や出展を通じて、エクオールと健康に関する情報提供を積極的に行いました。また、エクオールは女性の健康と関係が深いことから、女性の健康セミナーでソイチェックを体験してもらったり、お客様の声を集め

て商品に反映させていきました。そうしているうちに、製薬企業からエクオールサプリメントが発売され、ソイチェックがテレビや雑誌で頻繁に取り上げていただけるようになり、ようやく検査ユーザーが1万5千人を超えるまでになりました。

そして、これから

— 今後の展望をお聞かせください

当社の検査は、病気の発見や診断をするためのものではなく、毎日の生活に小さな気づきを持っていただくための検査です。今年は「ソイチェック」に続く新製品として食塩摂取量を測る「シオチェック」と、カラダのサビつきを測る「サビチェック」を投入し、市場の評価を受けることで事業としての自信をつける年にしたいと考えています。

生活習慣を改善するには自分の健康を気軽にチェックできることが大切だと考えています。例えば、塩分の取り過ぎが高血圧等につながることはよく知られていますが、自分がたべている塩分量を知っている人はほとんどいません。しかも、日本人の7割は政府の推奨値以上の食塩を摂っています。身近な検査を通じて食卓が変われば、自分だけでなく家族の健康づくりまでお手伝いできるのではないかと期待しています。

インキュベータからの卒業に向けて、今後もユニークな検査サービスを開発するとともに、海外展開も積極的に進めていこうと考えています。



社員一同

インキュベーションの利用

◆ 入居のきっかけ

中部経済産業局からの紹介でこの施設を知った。大学以外の施設で尿や細胞を扱える場所を探していたところNALICが見つかった。

◆ 入居しての変化

入居当初は30m²の部屋を借りていたが、研究テーマが増えるにつれ、60m²→90m²→120m²と、事業の進捗に合わせ、借りる面積を順調に増やしている。

入居後は研究機関向け受託分析から、一般消費者向け末病検査サービスへ事業拡大中。

◆ 入居してよかったこと、 将来の入居者へのメッセージ

NALICにはP2実験が可能な施設もあるので近い将来利用したい。また、安全講習なども受講でき非常に恵まれた環境にある。その他、入居企業同士の連携も可能で、業務提携や共同開発などを進めているところ。

from IM

名古屋医工連携インキュベータ (NALIC)
チーフIM 石黒 裕康



ヘルスケアシステムズ社のビジネスは、日本人の食生活変化に目を付け、研究に基づいたシーズ活用もしっかりしています。しかし、それ以上に、瀧本社長は周りとのWin-Winの関係を作っていくのが非常にうまく、応援団がたくさんいます。その応援団の一つとしてIM室もサポートしていきます。



名古屋医工連携インキュベータ (NALIC)

名古屋医工連携インキュベータ (Nagoya Life Science Incubator / 略称: NALIC) は、名古屋大学・名古屋工業大学・名古屋市立大学をはじめとする地域の大学などが持つ医工連携・ライフサイエンス分野の技術シーズ・知財などを事業化するベンチャー企業・中小企業に対しあらゆる面でビジネスを支援します。



BI 紹介

〒464-0858
愛知県名古屋市中区千種2-22-8
Tel.052-744-5110 Fax.052-744-5160